

安全センター

第30回総会成功

「『攻撃的行動』に

特別講演

職場でどう対応するか」

～組合員（なかま）と

寄り添って～

九月二十五日、尼崎安全センター第三〇回総会を一八時から中小企業センターで行いました。各労組・団体・アスベスト患者と家族の会、安全センターOBなど二五名が集いました。

総会参加者は五三名↓四〇名↓二七名↓二五名と年々落ち込んでおり、熱心なOBの皆さんに感謝するとともに、現役労働者の参加・奮起を促したいと思います。



2019/09/25

活動報告、活動方針

二〇一八年度の定例交流会は「事故・災害報告」、「職場のハラスメントをチェックしてみよう」、「積み重ねの安全活動」、「職場での感染症対策」、「ストレスチェックをどう活用しているか」、「腰痛事例と対応・対策」、「安全衛生委員会の取組み」、「働き方改革で具体的に変わったこと」を開催しました。近年の大きな課題であるメンタルヘルス問題について、制度変更があった働き方改革についてなどをテーマとしました。

[発行]

尼崎労働者安全衛生センター

[連絡先]

〒660-0802

尼崎市長洲中通 1-7-6

TEL・FAX 06-4950-6653



1,890円(当センター割引あり)

2019年度加盟労組・団体

いての交流や学習の機会はとも

JAM 東洋精機	武庫川ユニオン
" 木村化工機	阪神医療生協
" ヤンマー尼崎	阪神労災被災者交流会
" 日本スピンドル	ひまわり医療生協
全国一般 富士レジン工業	ひまわりの会労災被災者交流会
日本板硝子共闘	賛助会員 連合尼崎
自治労 尼崎市職労	尼崎地区労
" 尼崎市水道	全国一般阪神地協
日興商会	全港湾大阪支部
	自治労阪神淡路共闘会議
	連帯労組関西生コン支部

講演会は「これってパワハラ!! 改善や対策はどうやって?」、「南海トラフへの職場・地域・家庭の防災対策」をテーマとして開催しました。六月には「クボタシヨツクから一四年 アスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会」にも主催団体として取組みました。

定例交流会、講演会共に参加者が少なくなりつつありますが、労働者の安全と健康を守る活動につ

2019年度役員体制

間をやり過ぎれば少し治まる。

議長 松原保 (代行)	運営委員 岡田光次 (尼崎市職労)
副議長 高所尚也 (JAMヤンマー労組)	" 高田郁夫 (尼崎市水道労組)
事務局長 飯田浩 (専任)	" (日本板硝子共闘)
事務局次長 塩見有生 (阪神医療生協)	" (JAM木村化工機)
会計 柏原啓二 (阪神医療生協)	会計監査 武澤泰 (アスベスト患者と家族の会)
運営委員 川涯智昭 (JAM東洋精機)	" 嶋内良則 (社会保険労務士)
" 大坪豊 (日興商会)	顧問 谷村梓
" 大西俊和 (全国一般富士レジン工業)	

ながるといふこと、といった内容

貴重なものです。二〇一九年度も引き続き交流会・講演会を行います。運営委員の皆さんと求められる内容をしっかりと検討して進めたいと思います。各労組からの積極的なご参加をお願いします。

あなたのために一生懸命に

なってくれる人がいる

特別講演は三戸秀樹さん(関西福祉科学大学名誉教授)に「『攻撃的行動』に職場でどう対応するか」をテーマとしてお話しいただきました。

理想と現実のギャップが怒りを生みだし、暴言・暴行へ、時には自分に向く(自殺)。怒りの初動ピークは長くて六秒程で、その時

「理想と現実のギャップ」の自覚 (S・Mさん)

講師には過去に何度も講演してもらっていますが、一貫して家庭の慰安・癒い機能の大切さを言われ続けています。労働組合にはあなたのために一生懸命になっくれる人がいる。寄り添いの活動をと助言をくれました。

総会の特別講演で、最もわかりやすく、しつくりと感じ取れたことは、「理想と現実のギャップ」——この差が大きいほど、(許せない・怒り)という攻撃的行動へつ

でした。

当たり前のようで自覚がしにくい感情ではありますが、自覚をするように自分を見つめながら自制することが大切だと、改めて気づかされました。

私たち労働組合への提言としては、
・寄り添い
・相互理解
これ以上絞れないタオルを絞らせない
などの言葉が、印象に残りました。

皆無になっっていない
メンタル障害
(T・Iさん)

メンタルヘル스에 障害を持つ職員が皆無にならない要因の一つである強権的なパワーハラスメントが、当局側にもあります。

講演では、様々な職場での類似的な事例を紹介列挙され、わかりやすい説明に時折見せる独特のユーモアでアクセントをつけ、飽きのこない引き込まれるものでした。講演を拝聴してこの問題を当局に当てはめると、結局のところ、人員不足による余裕のない業務が、このような問題を引き起こすように感じられます。



生存を脅かす

ものへの〈怒り〉
(H・Tさん)

三戸先生ご自身が幼いころから体がそんなに強くない、「人より遅れている」という強迫観念を持っておられた。その強迫観念を最大に活かされた研究ではないかと思う。一般的な精神状態ならば、ここまで踏み込んだ研究はできないかもしれない。

最近特に目立つ今まではあまり見られなかった悪質な事件ニュースに、常々疑問を持っていた。今回の講演を聞き進めるうちに、根底にある共通の要因が「理想と現実とのあまりに大きすぎるギャップへの怒り」ではないかと考えた時に、いろんな事件が一つに繋がってきたように感じた。

攻撃本能は生存の基本にあることを初めて知った。生存を脅かすものへの怒りは、意識するしないに関わらず、自分自身にもあった。

人間として直接その本能を出せないために、「怒り」という形に変えて他者へのいろんな行動になるわけで、それが自分自身に向けられれば最悪、自殺となる。最近、アンガーマネジメントのことが良く取り上げられるが、「怒りのコントロール」の大切さを強

く実感した！それに、家庭の持つ役割を再確認する良い機会となった。

ぜひ、今回の内容を一般人の暮らしの参考書となるべき書物にしていただくことを願っている。とても有意義な講演を聞かせていただけで、感謝いたします。

煽り運転など、
わかりやすく
(A・Kさん)

現在、社会的な問題になっているあおり運転や職場での不当な事例の解決策を、とてもわかりやすく説明いただいたと思います。

特に、『蟹工船』の解説で、経営者側の法的責任を逃れるための領海外での出来事であったというのは、とても驚きました。

パワハラ、普通にあった
(S・Mさん)

先生の話に徐々に引き込まれたが、時間が限られ残念だった。

以下、私の経験談。高卒後入社した薬品卸の中堅会社で所員30〜35人の営業所に配属。25歳頃に5人の営業職チームリーダーを任された。売上計画、回収、新規得意先開

えるのは単純すぎるか。

個の生活、労働者への視点を強化すること
(N・Hさん)

総会での特別講演の中で、安全センターや労働組合の役割

- 1 寄り添い機能を持つ活動をもっと活性化する。(レク、スポーツ)
- 2 自助と互助の機能が出やすいものを強化する。
- 3 個の生活、労働者への視点を強化する。
- 4 これ以上絞れないタオルを絞らせない。

以上4項目について、どれも興味深い内容でした。各自がグループや個人を注意深く観察、または寄り添っていかねば感じないことであり、ポジティブな思考の時に感じる、最も重要な人との接点であると感じました。

団体をまとめていくうえで、代表者・各役員がそれぞれ身につけるべきであると思います。私個人としては、4の「これ以上絞れない…」の項目で具体的事例に沿った内容が聴ければありがたかったです。次回講演にも、あればぜひ参加したく思います。